

NPO（特定非営利活動法人）

映画美学校

THE FILM SCHOOL OF TOKYO

フィクション・コース第24期高等科

募集要項

Fictional Film Production Course

2021

フィクション・コース第24期高等科 カリキュラム

■初等科からさらに進んだ映画づくり

初等科で作ったものから各自の課題をまず明確にして、次にどのような映画を作れるようになりたいかという目標を立てて各自の課題に臨みます。

「10分短編」→「コラボレーション実習」→「修了制作・企画開発」と各タームの経験をフィードバックさせていきます。

■“プロとの映画作り”「コラボレーション実習」

インディペンデント映画の実情(低予算、限られた撮影日数)の中で、いかにして観客を振り向かせる映画を生み出すか？
そのためのモデルケースとなる企画のあり方、脚本作りを、シナリオ・ライティングの訓練を兼ねて探求します。

監督は講師および受講生(代表者)が務め、技術面でも講師がつきます。この体験が修了制作に生かされます。

○第24期高等科コラボレーション実習(監督:万田邦敏)

■“あなたのデビュー作”を撮る「修了制作」

みなさんと同じ条件から出発した国内外のインディペンデント映画と競い合うことを射程においてあなたのデビュー作を作ってください。

「10分短編」「コラボレーション実習」を通じて、今、どんな映画を作ったら面白いかを互いに問い、探求し、技術を磨きます。そこで培った演出力と開発された企画・シナリオが今後の映画作りのベースとなります。

シナリオとビデオの選考により監督が選抜され、学校の予算(45万円程度)で制作を行います。

○演出・脚本講師:万田邦敏(映画監督)、池田千尋(映画監督)

○技術講師:山田達也(撮影)、臼井勝(録音)

担当講師メッセージ

私が授業で行うのは、受講生のみなさんが作る10分短編作品と修了制作作品のシナリオ開発の手助け、10分短編作品の上映講評を通しての演出技術のアドバイス、コラボレーション作品の共同製作です。

「手助け」と「アドバイス」に関しては、幾分かは「ダメ出し」の気味を帯びることもあります。原則的には「こんな考え方があるので、そのことについて考えて欲しい」というスタンスで臨むつもりです。映画は感性で作るものではなく、まずもって思想で作るものです。ここでいう思想とは、映画表現とはいったい何かという問いに対するその人なりの思索の積み重ねのことです。つまり、「考える」ということです。「ダメ出し」があるとすれば、それは「考えてね」と言っているのです。同じことですが、「言葉にしてね」と言っているのです。

「共同製作」に関しては、1本の短編映画を受講生のみなさんと文字通り共同で作るということです。ここでは、私の思想とみなさんの思想を実践に変換していく様々な局面を体験することになりますが、思想がそのまま丸ごと作品として表現されることはあり得ず、多くの思い違い、考えの甘さ、強いられる妥協、しかしときとして思わぬ飛躍を経験し、思想がさらに鍛えられます。

そうして鍛えられた思想を、今度はみなさん自身が映画表現として実体化する場が修了制作となります。

それから、これはとても重要な情報ですが、過去に高等科へ進んだ受講生たちの中には、高等科のカリキュラムを受講することで自分の進む道に目覚めた人がたくさんいます。初等科だけではつかみきれなかったことを、高等科でしっかりと実感し得たのだと思います。彼らは監督に限らず、技術スタッフやプロデューサーとして今も映画に関わり続けています。

万田邦敏

今年から高等科では新たなカリキュラムに取り組むことになりました。私は10分短編作品と修了制作作品のシナリオ開発と完成までの手助けをすることになります。初等科を経て新たなスタート地点に立ったみなさんと共に何ができるのか、どんな化学変化が起こるのか。私自身も新たな思いで、多くを学び発見していくつもりです。

みなさんは初等科での映画制作を通じて、それぞれに自身の課題を自覚し、直面している最中だと思います。向き合い切れなかったこと、見つけられなかったもの、講評で指摘されて引っ掛かったままでの言葉。そう簡単に答えは出ないし、自分に足りないものを自覚し続けるのは苦しい。けれど、それこそがあなたを今後押し上げ、引っ張り続ける大きな力になります。

映画に向き合うことは、自分という人間に向き合うことです。自分が持つ思考、言葉、知識、それがどれだけ足りないのか、弱点は何か。思い知りながら、自分の映画とは何か探し続ける。思い知るためには、他者の助言や指摘が必要にもなります。あなたの課題を大きく目の前に掲げ、映画を作り続ける。一人では難しいことも、誰かがいれば可能にできる。映画美学校はそんな場所だと思います。

池田千尋

フィクション・コース第24期高等科 カリキュラムの主な流れ

10月28日	開講ガイダンス／10分短編要項提示
11月	10分短編：企画検討
12月	10分短編：シナリオアドバイス 10分短編：演出実習
2022年1月	10分短編：撮影期間
2月	10分短編：上映と講評 コラボレーション実習：企画提示 コラボレーション実習：スタッフ編成・ロードマップ会議
3月	コラボレーション実習：企画開発・撮影準備
4月	コラボレーション実習：機材の使い方（撮影・照明・録音） コラボレーション実習：テスト撮影 コラボレーション実習：リハーサル
5月	コラボレーション実習：撮影本番 コラボレーション実習：Davinci Resolveサウンド講義
6月	コラボレーション実習：Final Mix コラボレーション実習：初号試写
7月	修了制作：企画検討 修了制作：シナリオ検討（～8月）
8月	修了制作：一部映像化・撮影期間 修了制作：一部映像化・上映と講評
9月	修了制作：最終シナリオ提出 修了制作：最終シナリオ検討会 修了制作：演出課題撮影期間 修了制作：演出課題上映・ディスカッション 修了制作作品決定
	修了制作実習

10分短編
ターム

コラボレーション
実習ターム

修了制作
ターム

※10分短編ターム、修了制作タームでの「企画検討」「シナリオアドバイス」「シナリオ検討」「演出実習」は、クラスごと（万田邦敏クラス、池田千尋クラス）に行います。

【10分短編（チームで撮る）ターム】

開講ガイダンスで自分の問題点・課題を認識したのち、10分短編に取り組みます。各自が企画提出後、企画検討の講義ののち、シナリオ化→シナリオアドバイスの講義を行います。その後、スタジオ他にて講師立ち会いのもと演出実習を行い、演出へのプランを検討したのち、チームに分かれて撮影を行い、完成作品の上映と講評を行います。

【コラボレーション実習ターム】 担当講師：万田邦敏

コラボレーション実習の目標は大きく分けて2つです。

1. 短編映画の企画開発・シナリオ作りを通して、企画力とシナリオ力を身につける。受講生は、コラボで製作する映画のシナリオを、担当講師と共に企画、執筆し、ドラマの構成力を身につけます。シナリオの開発期間は約2ヶ月です。
2. 監督は、担当講師および受講生（代表者）が務め、またプロである撮影、照明、録音の講師のもとで撮影を行います。プロのもとで、講師のみならず受講生も演出をすることで、10分短編でのチームで映画を作ることの、よりレベルアップした映画作りを体験します。ここで培ったクリエイティブの感覚と技術力が、修了制作の現場でも生かされます。撮影期間は4日間程度を想定、ポストプロ期間は2ヶ月程度です。

<担当講師より>

コラボのシナリオ作成では、講師の思想に受講生みなさんの思想をぶつけ、互いの思想を鍛え直すことによってより強度のあるシナリオの完成を目指すことになると思います。具体的に言えば、まずは講師がお題を出し、受講生の皆さんがそのお題を膨らませ、再び講師が参加して、講師と共にシナリオを仕上げていくということになります。シナリオは、芝居を考えながら書かなければなりません。ここで言う芝居とは実際の演技のことではなく、アクションとリアクション、関係性の変化、ドラマ、つまりは生身の身体と感情のことです。芝居は、映画のフィクションとリアルを支える重要な要素です。芝居についての思索は、シナリオを作成しているあいだじゅう、ずっと問題になるだろうと思います。そしてそれは、撮影の現場でも問題になることです。芝居を成立させるために必要なものは何か。どのパートのスタッフも、結局はそれに向かって思考し、準備し、実行します。演出は、私と受講生の代表者が分担して務めます。シナリオ作りと同様に、そこでも互いの思想がコラボレーションします。撮影は、準備も含めてそれなりにハードです。しかしそれは、意味のないハードワークではありません。ハードを通過した後には経験値が残ります。その経験値は、みなさんが修了制作を作る現場で活かされるし、その後のみなさんの映画との関わりにおいて活かされ続けるはずのものです。（万田邦敏）

◇準備（2月～4月）

準備段階における課題・問題点を全員で共有し、各部ごとの準備を進めます。また、実際のロケ地探しなども進めていきます。

◇機材の使い方・テスト撮影（4月）

コラボレーション実習の撮影に向けて、撮影部・照明部・録音部はあらためて機材についてレクチャーを行い、撮影本番に向けてのテスト撮影を行います。

◇リハーサル（4月）

実際に撮影で使用するシナリオをもとに、芝居を作り込んでいく過程を受講生全員で体験します。

◇撮影（4月末～5月上旬予定）

担当講師とともに、実際の演出、撮影を体験します。初等科で行ったミニコラボとは比較にならない、経験したものの曰く「これを通るか通らないかでは全く違う」現場体験が待っています。

◇コラボレーション編集（5月）

完成までの作業を自分たちで行います。スタッフを再編成し、全員で編集から仕上げまで取り組みます。

◇仕上げ作業（5～6月）

編集同様、完成までの音仕上げ作業を自分たちで行います。「DavinciResolveサウンド講義」を経て、本格的な整音作業を体験します。「音で映画を豊かにする」ということはどういう事なのかを実際に機材を動かしながら体験していきます。また、映像の色彩補正作業もこの期間に行います。

【修了制作ターム】

修了制作に向けた24分から30分尺のシナリオの企画・開発を行います。24分から30分尺である理由は、この尺が、映画を見るものを納得させるドラマを描くことのできる最低尺であることと、国内外の短編映画祭等にエントリーする際のひとつの基準となっているからです。企画検討ののち、シナリオ化→シナリオ検討→一部分の映像化（&上映と講評）→最終シナリオ（&シナリオ検討会）と、書き物・映像両面から検討を重ね、次にフィードバックしていきます。最終シナリオ、最終の演出課題をもとに、2022年9月に修了制作を選考します（修了制作の本数は受講生の人数（つまり予算）によって変動します）。作品は30分尺。2022年10月から制作を開始し、2023年4月ごろに完成を予定しています。

【映画表現論】

フィクション・コース初等科との合同講義で、映画表現論を行います。

講義回数：全4回、担当講師（五十音順）：深田晃司（映画監督）、三宅唱（映画監督）、他2名

映画美学校フィクション・コース第24期高等科 募集要項

■ 受講期間：2021年10月28日（木）から2022年9月

※2022年9月から2023年4月までは修了制作の制作期間となります。

■ 受講資格：第23期までのフィクション・コース初等科修了生、フィクション・コース第24期前期修了生／第24期初等科後期修了生、映画映像制作の基礎を修得した方

■ 講義日程：＜開講日＞2021年10月28日（木）19時から。※詳しくはカリキュラム日程表をご覧ください。

■ 定員：26名（最低開講人数19名）

■ 受講料：379,000円＋保険料9,000円＝388,000円（税込）

※映画美学校をはじめて受講される方は、上記の受講料以外に入学登録料（10,000円）が必要になります。実習費等の別途徴収はありません。

※受講料のお支払いは一括支払いか分割支払いをお選びください（なお映画美学校通年講座を初めて受講される方は全額分割はご利用いただけません）。

※受講証の有効期限は2022年9月までとなります。

※受講料の分割払いでのお支払いにつきまして

総額388,000円（受講料379,000円・保険料9,000円）

194,000円を前払い（映画美学校通年コースを初めて受講される方は204,000円） 残額194,000円が分割払いになります。

お支払回数	金利	合計金額	前払金	残額	分割払利息	分割支払金合計	毎月の引き落とし金額
5	4.20%	388,000	194,000	194,000	8,150	202,150	40,430
10	7.00%	388,000	194,000	194,000	13,580	207,580	20,758

全額388,000円が分割払いになります。（映画美学校通年コースを初めての方は選択出来ません）

お支払回数	金利	合計金額	前払金	残額	分割払利息	分割支払金合計	毎月の引き落とし金額
5	4.20%	388,000	0	388,000	16,300	404,300	80,860
10	7.00%	388,000	0	388,000	27,160	415,160	41,516
20	10.50%	388,000	0	388,000	40,740	428,740	21,437

（単位：円／税込）

■ 申込締切：2021年10月21日（木）まで（尚、締切日以前に定員に達した場合は申込受付を締め切らせて頂きます）。

■ 申込方法：オンラインによる申込

映画美学校ホームページよりお申し込みください。

選考のうえ、合格者には、合格通知と受講手続きのご案内をメールまたは郵送いたします。

申し込みはこちら



■ 受講手続：合格通知に記載されている受講手続きに従い、受講料をお振込ください。入金が確認された時点で申込み受付完了となります。

※講義開始に関わらず、申込者の自己都合での解約による受講料の返金は原則お断りいたします。ただし、疾病等、本校がやむを得ないと認める事由についてはご相談に応じます（詳しくは映画美学校約款をご参照ください）。

映画美学校約款

Ⅰ 受講上のご注意

- ◎講義の写真撮影、録画、録音はご遠慮ください。
- ◎持病のある方、あるいは体調不良になられた方は事務局にご相談下さい。
- ◎講義の際に使われる各種の機材・備品などの取り扱いには十分に注意して下さい。機材や備品を大切にすることは映画づくりの基本です。
- ◎館内での私物の管理は、各自で責任を持って行って下さい。賠償の責は負いかねます。また、受講生本人の不注意による事故や物的損害に対しても同様です。
- ◎当校は現役の映画人に講師をお願いしておりますので、講師のご都合またはやむを得ぬ事由により、講師やカリキュラムを変更することがあります。また、交通機関の混雑や、天災地変などやむを得ない事情で、カリキュラムを変更する事があります。
- ◎各コースのカリキュラムは、講師陣により日々検討を重ねております。そのため、要項に記載のカリキュラムが若干変更・修正される可能性もございます。変更・修正の際は理由を説明いたします。
- ◎急なカリキュラムの変更等、当校より緊急連絡をさせていただく場合がございます。ご登録の氏名・住所・連絡先等に変更があった場合は、すみやかに事務局にお知らせ下さい。
- ◎受講希望者が一定の人数に達しないクラスは、開講を見合わせる場合もあります。

Ⅱ 受講取消の扱い

- ◎いったん納入した受講料は、原則としてご返金できません。各講座の予算は講師陣と事務局が協議して慎重に確定いたしますので、その後のキャンセルはカリキュラムの実現に重大な支障を来します。ただ、病気や転勤など、当校がやむを得ないと認めた場合は、開講日以前であれば下記の計算方法でご返金いたします。その場合、医師による診断書や勤務先の辞令（コピー可）など、受講不可能となった事由を証明する書類をご提出下さい。

Ⅲ 受講開始日より起算した返金額

- 30日前まで：全額の90%
- 29日前～14日前まで：全額の75%
- 13日前～7日前まで：全額の50%
- 6日前～1日前：全額の25%
- なお、講義開始後のお申し出は、お受けできません。

Ⅳ 安全面について

- ◎映画の撮影時には、スタッフ、キャストともに目の前のことに集中するので、事故が起こりやすいものです。事務局から配布される注意事項をよく読んで厳守し、撮影にかかわる人たち全員が安全面に配慮することで、絶対に事故を防ぐようにして下さい。将来、講座修了後も、映画を制作し続ける限り、一番大切なことです。なお、注意事項に書かれていないことは、遠慮なく事務局にご相談下さい。
- ◎非常口、避難通路などは事前にご確認下さい。災害が発生した場合は、必ず係員の指示に従って行動して下さい。

Ⅴ 著作権について

- ◎本校のカリキュラムの一環として制作された画像、動画、サウンド等の著作権は基本的に映画美学校に帰属します。従って、それらの全部又は一部および、授業風景等を録画・録音したものの全部又は一部を、本校の広報・業績・紹介目的のため、任意かつ無償で利用することがあります。その際、著作者の氏名の表示を省略することもあります。諸般の事情により支障のある方は、開講してなるべく早い時期に事務局にご相談下さい。なお、利用にあたっては、第三者の著作権、商標、名誉、信用、肖像権その他の権利を侵害しないように細心の注意を払います。

■お申込み・お問合せ

特定非営利活動法人 **映画美学校**

〒150-0044

東京都渋谷区円山町1-5 KINOHAUS B1F
(渋谷・文化村前〈松濤郵便局前〉交差点左折)

TEL 03-5459-1850 FAX 03-3464-5507

<http://www.eigabigakkou.com>

受付時間(月～土) 12:00～20:00

